

■役藍泉(島田道甫) 修験者、儒者。その豪傑ぶりに感嘆した亀井南冥と肝胆相照らし、防長に南冥の学を波及させた。

えんのらんせん

徳川吉宗没・1751＝ 周防国徳山で、修験僧たる教学院住職島田田盛の嫡男に生まれる。名は観、字は道甫。

父との師で服部南郭の門下国富鳳山によって文学に覚醒、鳳山の嗣子子善と親友になる。

大岡忠光没・1760＝ 9歳：

・・・・・・1762＝11歳：鳳山が死去。鳳山の甥で弟子の本城紫巖に師事して、大きく感化される。

錦絵始・・・・1765＝14歳： 向学心に燃えるも、徳山には藩校が無く、  
\_修験僧継嗣として、父に伴して、大峰入山に旅立ち、

意次側用人・1767＝16歳：父が葛城祀の命を受けた時の事情を詳細に記録、  
久留米藩工事1768＝17歳：この年、教学院が三之間寺院筆頭として、15石から25石に加祿、  
・・・・・・1769＝18歳：  
・・・・・・1770＝19歳：初めて父の代理として、上洛。

田沼意次老中1772＝21歳：念願かなって、萩(明倫館)に遊学、滝鶴台の教えを受け、  
大原騒動・・・・1773＝22歳：この年、竹馬の友青木友卿が九州に遊んで亀井南冥に会い、感銘受けたことから、徳山で南冥の名が知られる。鶴台の死去後は、その嗣子士義ほかと交友するも、中風の父の看病と大峰登山の責務で帰郷、  
解体新書・・・・1774＝23歳：\*壮大な決意をもって、同志7人と文学結社{幽蘭社}を興し、ひたすら詩作。教学院付属の{采石園}流れる藍川にちなんで藍泉と号し、園内に書堂(藍泉亭)を設け、文名が高まるにつれ、来訪する者も増加。修験道の祖役小角の流れをくむと称して役を姓とした。

雨月物語刊・1776＝25歳：入洛した際、かねて作品の素晴らしさ知っていた池大雅を訪問、  
・・・・・・1777＝26歳：\_友卿の尽力で、東遊の途中初めて徳山を訪れた亀井南冥の招宴に列して、その人物に感銘。直後に藩命で江戸に出た友卿が現地で死去してしまい衝撃、「葵園遺稿」を編集。

江船蝦夷来 1778＝27歳：南冥の師永富独嘯庵の遺児充国が来訪、父譲りの豪傑ぶりを喜ぶ一方、大峰入山中に親友坂仲礼が死去。南冥が藩校{甘棠館}教官に抜擢されたのを知ると、子弟に萩(明倫館)でなく{甘棠館}遊学を勧める。  
源内獄中死・1779＝28歳：入洛した際、片山北海ら多彩な人物を訪ねる。\*この年までに、{幽蘭社}5000余首の文集を編集。宗派根性を打破して積尊そのものに帰ろうとする意識が高まり、これが実社会への憤激となって、初の論説となる政治論「大道公論」を書き上げ、南冥に批評を求めたところ、内容に共感される一方、その過激さに、南冥すらその発表危ぶんで抑制求められる。

・・・・・・1781＝30歳：父が死去し、家督を相続。この頃、漂泊の旅人としての憂愁詠んだ「詠懐」10首。  
天明大飢饉始1782＝31歳：父の一周忌に、京の聖護院に詣でて大峰入山に向かうにあたり、断腸の思いを詠む。  
意刺殺事件1784＝33歳：\_「新語」の撰述を終える。

蝦夷初調査・1785＝34歳：本城紫巖を学頭に、ようやく開設された藩校(鳴鳳館)教授となり、以後、南冥と活発に詩を応酬、

田沼意次失脚1786＝35歳：両者による文運の興隆が、本田真卿の脱藩という思わぬ事件を起こし、

寛政改革始・1787＝36歳：御免となって、教学院の寺務に専念。

混浴禁止・・・・1791＝40歳：南冥の嫡子昭陽が、父から藍泉の教えを受けるように言われたこともあって、東上の途中に来訪。

ラスマン来日・1792＝41歳：“異学の禁”によって、南冥が追放されるが、なお、詩篇や書状交換は続く。

松平定信引退1793＝42歳：かねて親交し藩校開設の功労者で開府以来の名家老といわれた奈古屋豊敬が死去して衝撃。再び(鳴鳳館)教授に登用され、以後も、\_修験者らしい身の軽さと奔放な気風をもって子弟を訓育。

写楽・・・・1795＝44歳：南冥を通じて深い友となっていた国島文助(京山)が死去、墓碑を撰する。

プロト来航・1796＝45歳：聖護院流修験道大先達に昇進、榮譽の一方、経済的負担が大きくなる。

古事記伝・・・・1798＝47歳：{甘棠館}が近隣の出火で焼失し、蔵書ほとんどを失った南冥父子から救援求める書状。  
この間、女流俳人菊舎も来訪している。

アメリカ船来航始1803＝52歳：病気の本地紫巖が死去する直前に、紫巖に代って、\*(鳴鳳館)学頭に就任するが、

レゾ来航・1804＝53歳：健康が悪化したらしく、かかさず務めてきた大峰参りを辞退、

青洲麻酔手術1805＝54歳：

レゾ報復・1806＝55歳：藩主に従って東上途中の昭陽が来訪し、15年ぶりの再会となる。大峰入山中に母が死去、宗門のしきたりと人情との矛盾に苦悩し、以後2年、再び大峰参りを辞退、

浮世風呂・・・・1809＝58歳：\*最後の力を振り絞って、大峰入山を果たしてまもなく、(鳴鳳館)学頭のまま、没した。  
詩文集「興山集」には忠実な古文辞の徒としての技量がうかがえる。